

FUKUUZU タイムス VOL.3

2022 年度 1 次隊

派遣国:ウズベキスタン

職種:ラグビー

氏名:森谷理央



●近況報告

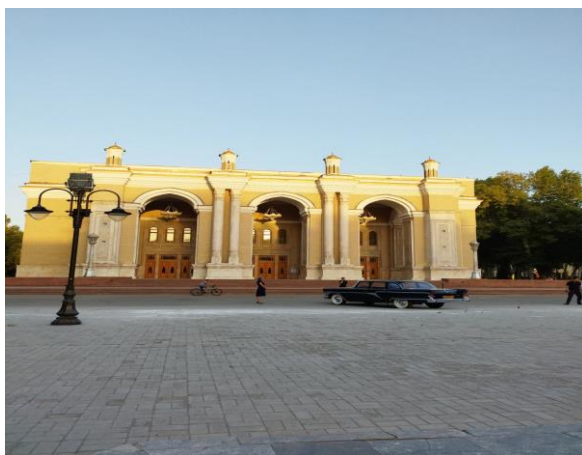
お久しぶりです。前回の投稿からだいぶ月日が経ってしまいました。寒い季節が急に終わると、此方のラグビーシーズンも急に始まりました。この「急に」何かが決まったり、始まったりというのはウズベキスタンでは頻繁にあることです。当初は、そのウズベキスタン独特の習慣に慣れるのに精一杯で、中々他のことに手が回らなかったのですが、最近は大分慣れてきました。

現在は、大学のラグビーチームと、スポーツ専門学校のラグビーチームにて、それぞれ週に3日ずつ活動しております。3月からタシケントは急に気温が上昇し、5月に入ってから、連日気温が30℃を超えています。ラグビーは屋外のスポーツである上、激しい衝突もあるコンタクトスポーツであるため、この暑さの中での活動は身体に对应しますが、日本のように湿度は高くなく、寧ろ乾燥しているので、個人的にはそこまで暑さに参るということはありません。

しかし、6月からは、現地語で「チッラ」と呼ばれる酷暑期に入らしく、気温も連日45℃から50℃に達するとのことです。しかし、ウズベキスタンの天気予報は、国民の混乱を避けるため、どれだけ暑くとも、39℃と報道するとのことです。そんな暑さの中で、果たしてラグビーの練習を行えるのか、甚だ不安であるため、此方のラグビー連盟に問い合わせしていますが、「予定は未定」とのことです。ウズベキスタンでは、予定や時間の概念が日本とはかなり異なり、当初はかなりの戸惑いでしたが、良くも悪くも、現在は大分慣れてきたかなと感じております。

●ナボイ劇場

さて、今回はタシケントにある「ナボイ劇場」についてご紹介いたします。此方は、市内の中心部にある、オペラ劇場です。この劇場ではシーズンになると、オペラやバレエなどを見ることができます。昨年の10月には、日本の和太鼓グループの方々来ウズし、パフォーマンスを披露してくれました。実はこの劇場、日本人によって建設された劇場であるという、驚かれる方もいるのではないのでしょうか。



←ナボイ劇場。この日は偶然、テレビのCM撮影が行われていた。

第二次世界後、ソ連軍によるシベリア抑留の折、ここタシケントでも多くの日本人捕虜が強制労働を強いられました。そのひとつがナボイ劇場建設だったのです。夏は酷暑、冬は酷寒のこの地で、いつ帰国できるかも分からない絶望の中、工事は始まりました。

収容所も酸鼻を極める環境で、数名の仲間が転落事故等で殉職する中、「折角造るなら心をこめて良いものを造ろう」と呼びかけた永田大尉の下、日本人捕虜達は一致団結しました。

捕虜として強制労働をさせられているにも関わらず、作業に対して微塵も手を抜かない日本人の姿勢に、現地人やソ連の軍人達も心を動かされ、いつしかお互いの信頼関係も生まれ、無事に劇場は竣工しました。

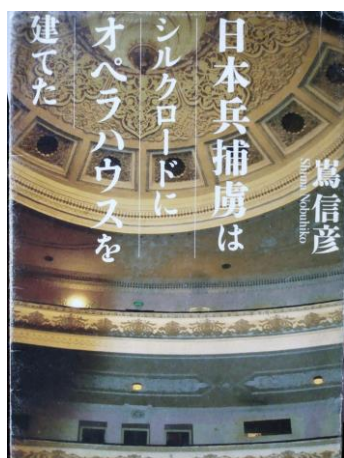
因みに、1967年、首都タシケントは、未曾有の大地震に見舞われ、壊滅状態となりました。建物の殆どが倒壊する中、ナボイ劇場は微動だにせず、その場に凜と佇んでいたとのこと。その為、被災者の方の避難所として解放され、多くの方が身を寄せたとのこと。

この件に関しては、鳥信彦さんの「日本兵捕虜はシルクロードにオペラハウスを建てた」に詳しく書いてあります。私はこの本に非常に感銘を受けました。もし宜しければ、手に取ってみて下さい。

それでは、またお会いしましょう。



←ナボイ劇場の裏には、この劇場が日本人捕虜によって建てられたことが、ウズ語、露語、日本語で記されている。



←タシケントのウズベキスタンジャパンセンターに併設された図書館で借りて読みましたが、本当におすすめです！

